

日本国際漫画賞

【令和2年度政府予算額：9百万円】



- 沿革
「今や世界各国に現れつつある若き漫画の旗手たちに、漫画の本家本元である日本から、権威のある賞、いわば漫画のノーベル賞のようなものをあげたい。」との思いから、2007年、麻生太郎外務大臣(当時)が創設。

- 概要
 - 海外の漫画家の応募作品の中から、最優秀賞1作品、優秀賞3作品を表彰。
 - 受賞者を10日間程度招聘し、日本の漫画家との懇談や関連団体訪問の機会を提供。



- 期待する効果
 - 世界の漫画家に対し、日本との絆を意識してもらい、漫画文化の担い手層の日本への好感度を維持する。
 - 日本文化の一翼を担う漫画を、海外で更に受け入れられやすくする。



招聘事業
写真提供：(独)国際交流基金

【参考】第1回から第13回までの応募作品の国・地域及び作品数

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回
国・地域数	26	46	55	39	30	38	53	46	46	55	60	68	66
作品数	146	368	303	189	145	245	256	316	259	296	326	331	345



第12回日本国際漫画賞授賞式

留学生交流事業

【令和2年度政府予算額: 82百万円の内数】

事業概要・目的

- 文科省が留学中の施策を実施し、外務省は、主に「入口」（来日前）と「出口」（帰国後）を担当。
- 本省経費
国費留学生の募集要項，選考試験問題，留学情報冊子等の在外公館への送付費用 等
- 在外経費
正確な留学情報の提供・広報活動
国費留学生の募集選考
留学アドバイザーを配置しての留学相談対応
国費留学生の渡日前オリエンテーション
「帰国留学生会」の組織化及び活動支援
帰国留学生を活用した対外発信事業 等

事業イメージ・具体例

- 日本への留学生数は約29.9万人（2018年5月現在）。こうした留学希望者に対し、現地在外公館がアドバイザー等も活用しつつ、正確な留学情報の提供、広報活動を実施。
- 在外公館が募集選考を実施する国費留学生応募者総数は年間約3万4千人。
- 帰国留学生会は世界に205組織。会員数約8万9千人（2018年在外公館調べ）。帰国留学生のうち、母国等の各界で指導的立場にある者のデータ約7千人（2018年在外公館調べ）分を把握。
- 在外公館は帰国留学生に対し、在外公館ニュースレター、我が国外交政策ファクトシート等の送付や帰国留学生を活用した日本文化紹介など対外発信事業を実施。

資金の流れ

国



委託業者，選考委員
帰国留学生会等

期待される効果

- 日本留学に関する正確かつ統合的な情報，日本の魅力を発信することにより適正な形での留学生受け入れ，留学生数の拡大に貢献する。
- 優秀な国費留学生を確保し，帰国留学生会等の組織化及び活動支援を行うことにより，我が国との架け橋となる知日家・親日家の人材育成となる。

対日理解促進交流プログラム

(Japan's Friendship Ties programs)

【令和2年度政府予算額：1847百万円】

目的

日本とアジア大洋州、北米、欧州、中南米の各国・地域との間で、二国間・地域間関係の発展や対外発信において、将来を担う人材を招へい・派遣し、政治、経済、社会、文化、歴史及び外交政策等に関する対日理解の促進を図るとともに、未来の親日派・知日派を発掘する。また、日本の外交姿勢や魅力等について、被招へい者・被派遣者にSNS等を通じて積極的に発信してもらうことで対外発信を強化し、我が国の外交基盤を拡充する。

対日理解の促進 ・ 親日派・知日派の発掘

対外発信の強化

外交基盤の拡充

概要

対象者： 招へい： 高校生～社会人等 / 派遣： 高校生～大学院生等

期間： 10日間程度（令和2年度内に実施）

対象地域： 招へい： アジア大洋州、北米、欧州、中南米 / 派遣： アジア大洋州、北米、中南米

地域別名称： JENESYS2020（アジア大洋州）、カケハシ・プロジェクト（北米）

MIRAI（欧州）、Juntos!!（中南米）

規模： 約18.5億円、約3,700人（令和2年度当初予算）

事業の実施形態

日本政府（事業方針に沿って推進）
（拠出金支出）

国際機関等（事業の実施団体を選定・委託）
（拠出金管理）

実施団体等
（プログラムの企画・実施）

外国報道関係者招へい

【令和2年度政府予算額:56百万円の内数】

1. 概要

- 外国報道関係者を個別又はグループで日本に招へいし、政治、経済、文化等の幅広い分野における最新の日本事情等に関する現地視察、インタビュー、政府関係者によるブリーフィング等の取材機会を提供。
- 訪日取材に基づき、外国メディアが日本の状況を正確に報道することによって、海外における正しい対日理解の増進、ひいては日本に対する好感度の向上を図る。

2. 接遇

- 期間
原則本邦着・発日を含めて最長8泊9日。
- 滞在プログラム
日本の広報上の課題や外交行事等を踏まえ、視察先・インタビュー先等に関する記者の具体的な要望を考慮して作成。外務省から記者に対し、適当な取材先の提案を行う場合もある。
- 経費
招へいに要する航空費、本邦滞在費は外務省が負担。滞在プログラムには当省手配のエスコートが同行。

3. 近年の実績

- 平成30年度
37カ国から計51名の記者を招へい。計201件(令和2年1月現在)の記事が掲載された。(個別10名、グループ7件51名。)
- 海外市場取り込みのための招へい
・インフラ輸出や「質の高いインフラ」に関し、日本の高い技術・品質等をアピールする招へいを実施。
- 日本文化・魅力発信のための招へい
・東京オリンピック・パラリンピック、和食や日本文化の魅力、ロボット等の先端技術発信のための招へいを実施。



見出し:「革新的思考が実を結ぶ」
豪州記者によるシャシン
マスカット農家等取材



見出し:「高齢者、移民及びロボット間のバランスの模索」
スペイン記者による介護施設での
ロボット利用取材

1. 概要

●世論形成に影響力のある諸外国のテレビ局取材チームを招へいし、日本事情について、有識者へのインタビュー、主要都市・施設の視察など、取材の機会を提供する。

●諸外国において日本の対外政策、経済、社会などをテーマとした日本特集番組を制作・発信させることを目的に実施。

●訪日取材に基づいて制作されたテレビ番組を通じて、幅広く、日本の状況を正確に伝えることにより、海外における正しい対日理解の増進、ひいては日本に対する好感度の向上が期待される。

2. 接遇

●期間

本邦着・発日を含めて最大10泊11日。

●滞在プログラム

日本の広報上の課題や外交行事等を踏まえ、視察先・インタビュー先等についてはテレビ局取材チームの具体的な要望に沿って作成。外務省からテレビ局取材チームに対し、適当な取材先の提案も適宜行う。

●経費

招へいに要する航空費(※)、本邦滞在費は外務省が負担。滞在プログラムには当省手配の制作現場責任者・通訳が同行。

※案件によっては航空費負担無し

3. 近年の実績

●平成29年度

ガーナ、ブラジル、フィリピン、ロシア、スペイン、ラオス、パレスチナの7チームを招へい。

●平成30年度

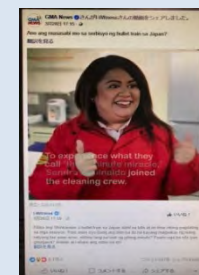
メキシコの1チームを招へい。

H29年度フィリピンTV局 GMA インフラ輸出促進等を目的とし招へい 【新幹線の魅力を発信】

日本の新幹線取材し、同局のドキュメンタリー番組“I-Witness”（45分）で放映。番組内で「フィリピンにも将来日本の様な鉄道システムができることを夢見ている」と総括。

放映後、同局Facebookに掲載されたYoutube動画は、再生回数120万回以上、シェア3800以上を記録。

同局はその他、日本のポップカルチャー特集（45分）も制作・放映。ゴルゴ13、ポケモン・ハローキティの万博誘致への活用も紹介された。



H30年度メキシコTV局 アステカTV 日墨外交関係樹立130周年の機会を 捉え招へい

【和食、雲楽釜、漫画、ロボット等を発信】

日墨友好関連施設、産官学におけるメキシコとの協力関係、東日本大震災からの復興、東京オリパラ、クールジャパン、地方の魅力（島根・鳥取）等の取材・インタビューを行った。訪日取材に基づき、11日間に亘り日本特集番組が放映され（延べ放送時間110分）、うち4件がクールジャパン関連の特集。

